

# SAK だより

神奈川県スキー連盟  
横浜市神奈川区台町16-1  
ソレイユ台町407号室  
電話 045(311)8907  
発行者:清水清則  
編集:中野善次郎

# 調好も国体品片

## 第40回国民体育大会冬期大会

- 会期 昭和60年2月20日～23日
- 会場 群馬県利根郡片品村

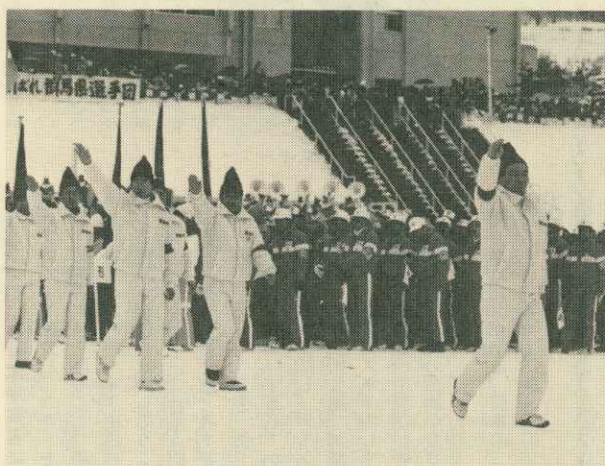


### 小川(7位)・高木(9位)・榎並(10位)が入賞

### 上原子・四手井・豊田も健闘

## 第40回国体に出場して

強化部長 佐々木 峻



第四〇回の記念大会は、群馬県尾瀬岩倉スキー場にて二月二〇日より二三日まで開催されました。昨年は、入賞者ゼロの結果で役員一同帰路は足取りの重いそして反省の多い大会でした。今年も、同じ思いをしたくないと、夏期の練習を例年にも増して激しいものになりました。

スキー場を持たない県の選手をどうしたら国体の舞台で入賞させることができるか、強化部一同長い間苦労してきました。スキーというスポーツが何時も雪国の選手だけが頂点に立つべきものなのか、神奈川県以外の選手も何とかならないのか、たとえ頂点に立たなくとも近く迄ゆけないのか、方法は必ずあると自問しながら我々は努力してきました。

大会の結果は、別項の通りであり、満足はしていないが何とか今後の方針が立つ成績であったと思います。高木選手の様に雪国出身とは全く無縁の選手でも努力次第で入賞する可能性があると思いを持たなければなりません。

本県の選手は、雪上のトレーニングを主体としたもので、夏期のトレーニングはやらないに等しい程度のものでした。スキーの選手としての進歩は雪上の部分よりも夏期トレーニングの方が大事なことでありと理解してもらおうの苦労してきました。しかも、オフ・トレーニングの選手の中からようやく全国に通じる選手が生まれ始めました。また、入賞を逃した選手の中でも来年出場したならば必ず入賞可能と確かな手応えで帰った選手が多数いたと思います。(参加から入賞へ)

冬の国体は、雪のない本県の選手は参加することで十分と思っていました。これからは、この様な甘い考えの選手は代表になれない程、レベルは上がりました。また、アルペン選手の方になりがちな選手数を、これからはクロスカントリーの種目にも力を入れ陸上トレーニングの強化により選手育成に努力してみたいと思えます。

〔長期の育成を〕  
スキー競技全体のレベルは次第に上がっています。これからは、ジュニアの選手も含め連盟自体の中でしかも長い目で見た育成をしてみたいと思っています。

今年の国体は、期待したジャンプの選手が振るわずもう少し取れるはずの得点が減りましたが、来年への確かなものを掴みました。来る二七〇〇国体では、今年よりさらに入賞者が増加した成績にしたいと思っております。

代表選手を抱える協会、クラブのみなさんの一層の御協力を切にお願いいたします。

## 成績

アルペン競技	山根 功	三七位	吉岡 庸雄	九七位
○大回転	水野 浩二	四七位	(成年男子二部)	
(成年女子一部)	小川 みゆき	七位	菊池 日出夫	二五七位
(成年女子二部)	井上 玲子	二五七位	柏木 正彦	五三三三三
(成年男子一部)	高木 由美子	九位	岩村 茂	五七位
(成年男子二部)	四手井 晶子	一七位	北川 松男	二四九位
(少年男子)	榎並 雪彦	一〇位	村松 孝	二九位
○距離競技	伊藤 伸一	三三三三三	○コンバインド	
(成年男子一部)	佐藤 明成	四二二二二	(成年男子一部)	網野 幸喜
(成年男子二部)	佐藤 寿夫	六〇〇〇〇	(男子リレー)	西館 健吾
(成年女子一部)	豊田 美津子	一一一〇位	神奈川県チーム	二二二二二
(成年女子二部)	乙供 将信	一一一〇位	(乙供・菊池・倍賞・吉岡・柏木)	
(少年男子)	倍賞 耕二	八四四四四	○ジャンプスペシャル	
			(成年男子一部)	上原子 次郎
				一三三三三

## 指導員検定19名合格

本年度は、本県から42名の受験者を数え、19名の方々が努力の成果を発揮し、見事合格されました。

- 合格者
- 鈴木重明 県庁スキー部
  - 佐々木政憲 川崎スキー
  - 森下 丈 川崎スキー
  - 山内 隆 川崎スキー
  - 清水 忠 ウィ・スキー
  - 浜島雄二 ド・ネージュ
  - 佐藤晴男 いすゞ藤沢スキー部
  - 平野光男 ユーベルスキー
  - 高橋雄二 横浜スノーメイツ
  - 廣松栄山 横浜スポーツマン
  - 佐藤次郎 横浜スキー同好会
  - 倉持賢次郎 横浜スキー同好会
  - 門田隆寿 湘南スキー
  - 木伏恒雄 ホワイトヘアー
  - 阿部文善 ソニー厚木スキー
  - 徳本 進 関東自動車スキー部
  - 佐藤長生 横浜税関スキー部
  - 金子俊雄 白銀スキー
  - 北山秀光 クリスタライズ

神奈川県民スキースクール5周年

### 大自然 北海道を滑ろう!

重い雪・白い雲は、自然のプレゼント  
白い粉雪は、自然のプレゼント  
白い大地は、大自然のプレゼント

1984.12.13(THU)~16(SUN)

締切り日には、各協会のご協力により三〇〇名を越す参加者となりました。

昨年の暮は、暖冬傾向にあり、各地のスキー場は、スキー場開きが出来ず一週ずつ後にはずらす所もあつた。私たちの行く北海道も、例年にみられない雪不足のようであり、現地で再三の連絡をとって雪の状態を聞く始末であつた。参加者からも、「中止になるのか」、「雪の状態はどうか」等の問合せが多くあつた。キャンセルする人も出て、県連をしても、どうするか検討をしたが、出発日まで様子を見ることにした。最後の決断として、雪が少し不足しているが、実施することにした。

今回は、出発が朝発と夜発の二グループに分けて行くことになり、現地での時間を有効的に使うことにした。朝発組は交通渋滞があり、出発ギリギリで間に合う人が出たが、予定通りにフライトすることができた。飛行も順調に行き北海道の上空にきたが、雪の少ないのが目についた。千歳空港にも雪がなく、スキー場も上部の方のみという話がかさね心配になつた。ホテルに着きただちに、ティネオリンピアスキー場に出掛けた。この時分から気温が下がると、雪の降る気配が濃くなり、山は雪になつた。その夜は札幌の街にも雪が降り、翌朝は一面の銀世界となつた。夜発も無事につき、札幌国際スキー場で開講式が行なわれた後に各別に県民スキースクール、指導員研修、準備養成講習、アルペン強化合宿、講習会が実施された。心配した雪にも恵まれ、有意義なうちに終ることができた。さらに夜は、記念パーティが催され、各協賛メーカーの賞品による抽せん会、生バンドによるダンスと楽しひひとときを過ごした。

三日間の講習を無事に終り帰路となつたが、五周年記念行事も成功裡に打上げることができたことは、会員の皆さんのご協力によるものと感謝している。さらに北海道行事も、これからも続けていきますので、会員皆さんが一人でも多く参加されることを望むものであります。

# 特集

## 白銀に魅せられた仲間

### まいあがれ愛と自由の熱雪

# チェア・スキー

白銀の世界に魅せられ、あの大  
自然の中を滑走する欲求は、誰れ  
も同じである。「車椅子でもスキ  
ーはできる。思いきり白銀を滑ろ  
う！」を合言葉に、開発したチェ  
ア・スキーで白銀の斜面にシユ  
ールを描いている仲間が、県内で  
積極的な活動をしています。



滑走するチェアスキー

## チェア・スキー (車いすスキー)

### 国際ミーティング

昨年の十二月二十七、二十八日  
の両日、スイスのサンモリッツで  
チェアスキー国際ミーティング  
(主催、日本チェアスキー協会、  
日本身体障害者スポーツ協会、朝  
日新聞事業株式会社)が開催され  
ました。

この企画は、「車いすでもス  
キーはできる。思いきり白銀を滑  
ろう。」を合言葉にして開発され  
たチェアスキーを、より多くの身  
体障害者に楽しんでもらおうと活  
動を続けてきた日本チェアスキー  
協会の結成五周年行事として行わ  
れたものです。

「ヨーロッパの身体障害者に  
チェアスキーを紹介し、スキーを  
通じての国際親善を図ること。車  
いす障害者のためのスキー用具に  
関する情報、技術を交換しあうこ  
と。」という主旨の下に、日本(四  
十一名、うち車いす八名)、スイス  
(十一名、うち車いす五名)、西ド  
イツ(十名、うち車いす五名)か  
ら総勢六十二名が参加し、デモン  
ストレーションや技術会議、試乗  
会を通じて、各国のスキーのしく  
みや滑り方、開発過程や現状が報  
告され、活発な意見の交換がなさ  
れました。

種類のスレッジスキー(両下肢麻  
痺者用、四肢麻痺者用、西ドイツ  
のミニ、マキシ、ポプという三種  
類のモノスキー(ミニは両側大腿  
切断者用、マキシとポプは両下肢  
麻痺者用)の七種類のアルペン用  
スキーで、いずれも特色のある興  
味深いものばかり。



チェアスキー国際ミーティング

モノスキー・ミニは、第二次大  
戦で負傷し両側大腿切断となった  
オルト氏らが中心となって開発と  
普及を進めてきたもので、西ドイ  
ツではすでに二十年の歴史がある  
ということだ。ミニは、やがて  
脊髄損傷者でも滑ることのできる  
マキシを生み、さらに安全性を高  
めたポプを頼り出しました。三種  
類のモノスキーは、一本のスキー  
の上に、ばねを介してシートを取  
り付け、両手にアウトリガーを取  
り付けて操作するもので、日本の  
チェアスキーII型機によく似てい  
たのが印象でした。

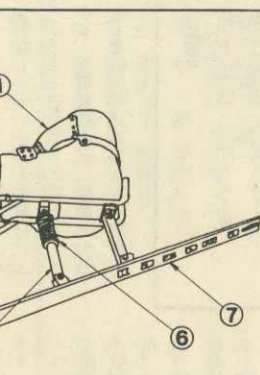
## チェア・スキーのしくみ

〈I型機〉

一方、スイスのスレッジスキー  
は、機械技師シュネベリ氏を中心  
に、スキーの好きな身体障害者が  
集まって開発と普及に励んできた  
ということだ。座って滑るスキ  
ーであっても、重心のコント  
ロールさえ上手にできればパラレ  
ルスキーでも滑れるはずだと、か  
たくなく二本スキーの完成を目指  
した。

I型機は、座った姿勢で上体を  
前後左右に動かすことでスキーの  
エッジ操作をします。  
立つて滑るスキーに比べて、大き  
く体重を移動できないので、これ  
を補うためにスキーは一本になっ  
ています。しかし、一本スキーだ  
と簡単に倒れてしまうので、両側  
の支えに板ばねでフロートをつけ  
ました。板ばねを用いたのは、体  
重のかけ具合でエッジの強さを調  
整できるようにしたためです。板  
ばねには、滑走時のばねの急激な  
伸縮を緩和するショックアブソー  
バがついています。座席には、身  
体を保護するクッションと安全ベ  
ルトの他、制動用のハンドブレー  
キがついています。ブレーキは、  
スキーのストックのように回転の  
きつかけをつくる時にも使います。  
重量は約十キログラムです。

在にコントロールできるスキーと  
して目を見張るものがありました。  
このスレッジスキーヤーは、ス  
キーの元インストラクターと聞い  
て、またびつくり。  
それにしても、スキー用具の違  
いとともに、最も感心したことは  
Tバーリフトの普及にも関連する  
と思いましたが、ヨーロッパの車  
いすスキーヤー達が、他人の介助を  
全く必要としないで単独でスキー  
を楽しんでいたことだ。オルト  
氏は、身体障害者のスキーの条件とし  
て、安全であること、他のスキー  
ヤーの妨げにならないこと、介助  
を必要としないことの三点を強調  
されていますが、学ぶべき点が大  
いにありました。



〈II型機〉

- ①安全ベルト ②バケット型プラスチックシート  
③フレーム ④フットレスト ⑤ショックアブソーバ  
⑥コイルばね ⑦スキー

型機は、両手にアウトリガーを  
持つてバランスを保ちながらス  
キーをコントロールします。座席  
とスキーの間には、雪面からの衝  
撃を吸収するショックアブソーバ  
がついています。II型機は、ス  
キーヤーの運動感覚で操作します  
ので、身体の動きを鋭敏にスキー

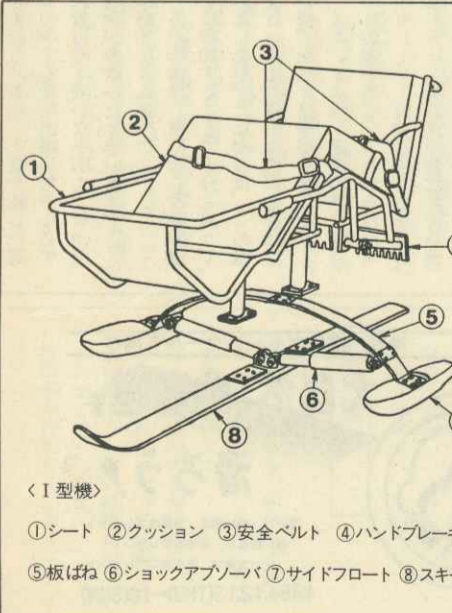
## チェア・スキー 協会の紹介

当協会は、身体障害者、特に立  
つことのできない下肢障害者のた  
めのスキーの研究、製作を9年前  
より行ってきました。そして数回  
の改良を重ねた結果、安全に滑る  
ことのできるチェアスキーI号機  
を完成させることに成功しました。  
この完成を機会に5年前に協会  
を設立し、チェアスキーの製作、  
開発と、一人でも多くの障害者の  
人達に滑ってもらうための普及活  
動と啓蒙を行ってまいりました。  
また、協会設立時より、毎年チェ  
アスキーツアーを開催し、毎回20

人以上のチェアスキーヤーの参加  
を得ながら実施しております。  
81年の国際障害者年には、カナ  
ダ政府とカナダ身体障害者スキー  
協会の招待を受けてバンフ・サン  
シャインビレッジスキー場にて  
チェアスキーデモンストレーショ  
ンとカナダの身体障害者との親善  
交流を行ってまいりました。

現在、協会員167人、賛助  
会員(団体 8人で運営しており  
ます。  
どうか、これからの冬期スポー  
ツとして発展できます様皆様の方  
の御支援、御協力を切にお願い申し  
上げます。

この様な実績を踏まえ、'85チェ  
アスキー国際ミーティングを企画  
し、チェアスキーを世界の舞台上に  
乗せるべくスイスツアーを実施し  
た次第です。



- ①シート ②クッション ③安全ベルト ④ハンドブレーキ  
⑤板ばね ⑥ショックアブソーバ ⑦サイドフロート ⑧スキー

ご理解とご協力をお願いし、無事  
'85チェアスキーツアーを開催す  
ることができました。今回のツアー  
での成果としては、大きく分けて  
第一に、ツアーで初めて利用した  
Tバーリフトの利用が完全にでき  
たことでした。そのため数多く滑  
走することができました。第二に  
は、チェアスキー2号機(通称ケ  
ツスキー)での頂上からの全コー  
スの滑走に大成功したことだす。  
この成果を来年以降のツアーに生  
かし更に成果を上げるべく努力し  
ていきたいと思っております。ご  
協力いただいたスタッフの方々他  
ご援助ご協力いただいた方々に厚  
く御礼申し上げます。

日本チェア・スキー協会では、  
身体障害者、健常者を問わず私達  
といっしょに活動して下さる会員  
を募集しています。チェア・ス  
キーの発展のために、ぜひいっ  
しょにやろうではありませんか。

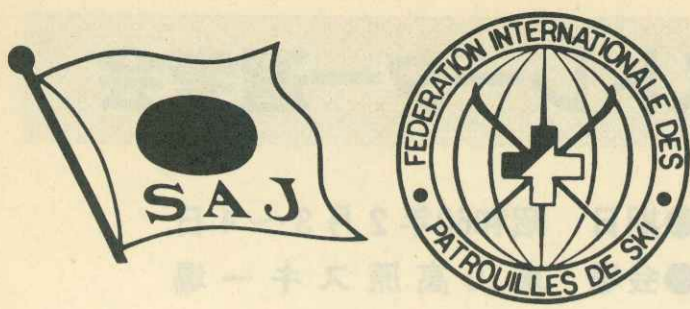
## 入会のご案内

- ◎入会金はありません。
- ◎年会費 二五〇〇円
- ◎賛助会員の場合  
年会費 一万円
- ◎連絡先  
〒243 神奈川県厚木市毛利台  
三十一-112 伊佐幸弘方  
日本チェア・スキー協会事務所  
TEL 〇四六二四七-三八一四

# FEDERATION INTERNATIONALE DES PATROUILLES DE SKI

## 第5回スキーパトロール連盟総会を終えて

神奈川県スキー連盟顧問 園山 和夫  
全日本スキー連盟傷対委員



参加国

- アメリカ
- スイス
- カナダ
- フランス
- オーストラリア
- ユーゴスラビア
- ニュージーランド
- スウェーデン

韓国

日本

現在では若者男女、全国一千万人を超えるスキー人口となり、まさに国民的な冬期スポーツに発展したことは御慶のいたりである。この喜ばしい発展に伴い、半面年々数万人に及ぶスキー事故障害者の発生を見、時には後遺症に悩む社会有為の若者もあり、また不慮の死亡事故も発生する憂うべき事態もおきている。

このような障害事故を防止すべく、全日本スキー連盟内に傷害防止対策委員会を設け、スキー指導者の安全教育、スキー場施設・スキー用具等の安全対策の研究と助言、スキーパトロールの養成等を推進してきた。殊にS.A.J公認パトロールは今期で二期生が誕生している。

このようなスキー事故発生の実体と、それへの対応・対策の問題は我が国と同様にスキー先進国群を擁するヨーロッパをはじめ、北米各国、南半球の各国でも共通の問題となってきた。

六年前、数ヶ国の提唱でスキーによる事故防止と、事故者救出に携わるスキーパトロールの第一回国際会議(日本代表として、S.A.K所屬教職員スキー同好会の大沢保男氏を公式代表として派遣する。)がカナダで催され、直接スキーエリア内で活動するスキーパトロー

ルの取り扱う豊富な事例を基に、スキー安全の諸対策と事故遭難者の救急について、各国の情報を交換し、施設用具・技術の相互伝達を進めて来た。

続いてアメリカ、オーストラリア、フランスと会場を移して会議が開催され、会を重ねるごとに参加国、参加者も増し、スキー安全にますます重要な会議となってきた。前回のフランスのメルビルの会議において、我が国が次期開催国と決まり、一九八五年三月三日から三月一日に長野県高山高原スキー場で催される運びとなった。

全日本スキー連盟としては、実行委員会を充足させ、充実した内容で運営することを旨とし、鋭意計画・準備を進め、参加一〇ヶ国一五〇名(他に、日本のパトロール特別参加一五〇名)の参加を得て盛況裡に開催され多大な成果を得て終了した。殊に三月六日に行なわれた日本チームの雪上デモンストレーションはパフォーマンスの評価を得た。(このデモにはS.A.K選出のパトロール技術員福沢洋治氏が出場した。)

また、この会の成功の蔭には会場地である高山高原スキー場関係機関の絶大な後協力のあったことを銘記したい。

一方開会中のディレクター会議、雪上デモンストレーション、室内レクチャー等で感ずることは、すでにヨーロッパ各国、アメリカ等ではスキー場安全基準が法律で定められ、そこに活動するスキーパトロールは国家機関で養成され、さらに高度の技術、知識を持った者に、国家検定資格を持たせるなどの制度が設けられている。これに比べると残念ながら、我が国の安全政策の遅れを認識せざるを得ない。

我が国での会議開催を契機にスキー安全に関する事業が広く多く国民の関心事となり、スキー安全についての立法、基準の制度、また安全の徹底につながれば極めて意義の大きいものであったと考える。また更には、これがスキースポーツの発展にもつながるものと確信する。

付記

- 一、この会議で日本語が国際語として認められた。
- 二、アメリカ・カナダ・オーストラリア・フランスの各国は、スキー連盟とパトロール連盟は別の組織である。
- 三、上記各国ともスキーボランチャアの社会的地位が高い。
- 四、アメリカは二月一日、スキーパトロールデーが設置され、その日のスキーリフト、ケーブル等スキーに係わる乗り物の総売上高の五割がパトロール連盟に寄付される。
- 五、日本は救急法では他国に優るとも劣らぬ救急の医療機器に関して劣る。今後大いに研究の余地あり。

### 創立五〇周年を迎えて

川崎スキークラブ会長 古川 肇

新緑のまばゆい季節を迎え会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて、私たち川崎スキークラブは本年をもって創立五〇周年を迎えます。

五〇年という年月は人間の歴史から見れば短い年月といえまじうがスキーの歴史から見ればそれは長い年月といえます。

当時、まだほんの一握りのスキーヤーがリフトもない野山を駆け巡っておりました。それはまさに野性のスポーツであったと思われまふ。

また会長にもつて行く事が通例のようであったが、真の神奈川スキー山岳会の創始者は佐藤さんであった。またその際で実際の運営されたのは、当時県の嘱託であった高田茂氏で、高田さんのスキーについての広い知識や経験をよく理解しておられ実技指導や大会運営など一切を任せておられた。佐藤昌彦氏はその頃のアシスタントであった。高田さんについてはまたの機会に記したいと思えます。

今活躍中のクラブ員のほとんどは、五〇年はお終戦後に生を受けたものであり。私は今、諸先輩の築いて来た五〇年の歴史の重さをひしひしと感じております。五〇年の節目を迎え、記念事業の一環として8月4日(日)川崎日航ホテルにおいて「五〇周年記念パーティ」を行ないたい。

最後にになりましたが、川崎スキークラブでは、この素晴らしいスキーのより一層発展のために微力ではありますが力を捧げたいと考えます。

### 神奈川スキー山岳会創始者 佐藤秀三郎先生を偲ぶ

名誉会長 黒川 秋三



佐藤先生と今日の神奈川スキー連盟について知る人は今のスキー連盟でも県体育協会でも数少ないと思えますので今日の神奈川スキー連盟発展の礎となった先生の御協力とその歴史を知って頂くために記して見たいと思えます。

以下、佐藤さんと書かせて頂きました。

マラソンの秀さんとして第十二回ベルリンオリンピックで、孫基植選手を優勝に導いた事はあまりにも有名ですが、自らも数多くの記録保持者でもあります。

本県スキー山岳連盟の創立は、昭和十四年二月十七日、翌十五年全日本スキー連盟に登録しています。

大正末期から昭和に入つて県内各地で、ハイキング・登山・スキーなどの同好の団体が急激に誕生し、横浜では外人のスキークラブ、横浜アルコウ会、東芝山岳会、横浜山岳会、横浜スキー、横浜ベレースキー、ライジングサン、横浜

また会長にもつて行く事が通例のようであったが、真の神奈川スキー山岳会の創始者は佐藤さんであった。またその際で実際の運営されたのは、当時県の嘱託であった高田茂氏で、高田さんのスキーについての広い知識や経験をよく理解しておられ実技指導や大会運営など一切を任せておられた。佐藤昌彦氏はその頃のアシスタントであった。高田さんについてはまたの機会に記したいと思えます。

わたしと佐藤さんとの出会いは、昭和二十三年、県スキー連盟の手伝いをしたのが縁で安藤利男先生や植村先生とも初顔合わせでした。石田兵一さん小林三吉さん、川崎の丸山さんらに招かれて、横浜スキー山岳協会の設立や県スキー山岳連盟の復活についてのまにか中核となつて働くようになり横浜の協会、県連の事務所も自分の所に置くようになった。佐藤さんは県の体育課長から教育部長を経て二十四年三月、小田原高校校長に転任されたが、わずか一〇ヶ月で平沼高校校長として横浜に帰って来られ県連の会合などにも幾度か学校の会議室を快く貸して頂いた。

横濱の協会も県連も尾関広会長でその女房役として六ヶ年、昭和二十八年末ごろよりスキーと山岳の発展分離の気運が濃厚となり昭和二十九年五月両連盟が完全に独立するようになります。

ここに慎んで神奈川スキー連盟を代表して御冥福をいのりませう。

# 第17回神奈川県デモンストレーター選考会

●期日 昭和60年2月3～4日  
 ●会場 車山高原スキー場



全関東基礎スキー選手権大会での上位四〇名によって、神奈川県デモンストレーター選考会が、二月の車山高原スキー場には珍しい春の陽気を思わせるようなゲレンデに、以下の五種目で決戦が行なわれました。

結果は次の通りです。

なお、来シーズンへの課題として、全関東基礎スキー選手権大会における成績も加味できるように検討する必要があると思われま。

デモ選考会種目

- 一、小回りターンの展開
- 二、シテムターン(谷開き)
- 三、ブルークボゲン(乗移り)
- 四、ステップターン
- 五、総合滑降

## クラウン・テクニカルプライズ合格者

一月二六日、戸隠高原スキー場において、有資格者強化合宿、指導員養成講習会と時を同じくして行なわれたテクニカル・クラウンプライズの合格者は次の方々です。

(クラウンプライズ)

佐藤 晴男 吉山佳一郎

桐生 武  
 堀誠 司  
 高橋 守  
 力石 一穂  
 伊藤 正一  
 鈴木 正治

〔テクニカルプライズ〕

塚脇 誠  
 小島 薫  
 田中 満  
 石黒 恒男  
 毛塚 克巳

検定中は戸隠には珍しい暖かきで濃霧に悩まされたのに、三月三日合格発表の朝はくっきりと晴上がった。

高原ホテルで自分のゼッケン番号が呼ばれた時は、嬉しさよりも何よりも「終わった」と体から力が抜けていく思いだった。

十月から五ヶ月間、私にとって今年の冬は駆け足で過ぎていった。一級までは何とか取りたい、と思っ

でも覚えていて、とにかく私は一度も大玉に触りもしなかった、という。私を除くあの三人がほとんどん転がすおかげで、私がやっ

と手を伸ばすと先に行かれ、また押を伸ばすと先に行かれ、私は一語に走っていただけであつた、というのだ。

徒競争は誰かが転んだとしても

会社の先輩に誘われて、やめたと誓ったスキーを五年振りに開始したのはお正月の岩岳スキー場。

この時、パラレルも出来ないの

ちょうど、会社や学校時代の友達もスキーに夢中になっていて、仲間も先輩にも恵まれ、こんな楽しい遊びは他にあらうかと思うほど

去年の夏、「来年、準指を受けてみなさい」とクラブの会長から言われ、やっと見つけた唯一のスポーツの句を持った遊びから楽しさがこの一言で失われてしまった。

検定会は戸隠には珍しい暖かきの中で行なわれ、濃霧のためしばしば中断した。

結果は幸いにも「合」と出たけれど、準指の資格は技術だけでは

コブも見えず、ゴールも見えない有様で、五里霧中という言葉は私のためにあるのかと思つた。

来週はいよいよ検定という時になつて突然、シテムターンはおろか、ブルークも出来なくなつてしまった。どうやら良いのか分からなくなつてしまったのだ。こんな状態は私だけのだろうか。虫垂炎でも肺炎でも起こして戸隠に行かずに済めば良いと思つたりもした。

## 準指導員への道

### 一 受験奮闘記

スノーメイツ 山岸あや子

でも覚えていて、とにかく私は一度も大玉に触りもしなかった、という。私を除くあの三人がほとんどん転がすおかげで、私がやっ

と手を伸ばすと先に行かれ、また押を伸ばすと先に行かれ、私は一語に走っていただけであつた、というのだ。

徒競争は誰かが転んだとしても

会社の先輩に誘われて、やめたと誓ったスキーを五年振りに開始したのはお正月の岩岳スキー場。

この時、パラレルも出来ないの

ちょうど、会社や学校時代の友達もスキーに夢中になっていて、仲間も先輩にも恵まれ、こんな楽しい遊びは他にあらうかと思うほど

去年の夏、「来年、準指を受けてみなさい」とクラブの会長から言われ、やっと見つけた唯一のスポーツの句を持った遊びから楽しさがこの一言で失われてしまった。

検定会は戸隠には珍しい暖かきの中で行なわれ、濃霧のためしばしば中断した。

結果は幸いにも「合」と出たけれど、準指の資格は技術だけでは

コブも見えず、ゴールも見えない有様で、五里霧中という言葉は私のためにあるのかと思つた。

来週はいよいよ検定という時になつて突然、シテムターンはおろか、ブルークも出来なくなつてしまった。どうやら良いのか分からなくなつてしまったのだ。こんな状態は私だけのだろうか。虫垂炎でも肺炎でも起こして戸隠に行かずに済めば良いと思つたりもした。



この時、パラレルも出来ないの

あ、開くとすれば平行に開いてしまふ。

なぜ私は昔のようにハの字が出

この時、パラレルも出来ないの

あ、開くとすれば平行に開いてしまふ。

なぜ私は昔のようにハの字が出

この時、パラレルも出来ないの

あ、開くとすれば平行に開いてしまふ。

なぜ私は昔のようにハの字が出

## 準指検定会

昭和60年3月1～3日  
 戸隠高原スキー場



例年二月になつておりました準指導員検定会は、各地区協会の要望もあつて、県総体スキー競技会と時を同じくした三月一日から三日まで、戸隠高原スキー場で行なわれました。

第一日は視界が悪く、検定種目によつては一時中断を余儀なくされ、二日目はまるでシャイベツトのような湿雪の悪条件、それでも受験者の方々の真剣なスキー

ングにゲレンデは緊張した雰囲気

に包まれた中、全日程を無事終了

しました。

合格者のみなさんには、今後とも自己研さんを重ね、真の指導者をめざして頑張り続けていただきたいと思ひます。

なお、今回努力が実らず合格に至らなかつた方々は努力を継続され、来るシーズンに向けてなお一層頑張りして下さい。

「継続は力」です。

渡辺久一 山手スキー

貝野瀬彰男 茅ヶ崎スキー

永倉 寛 伊勢原シーハイ

星野 満子 古い帽子の会

内田陽裕 横須賀新雪スキー

柴田秀一 平塚スキー

森尻重信 ボレアススキー

山岸あや子 横浜スノーメイツ

飯塚幸一 富士小田原スキー

伊藤正一 スキークラブカメ

越川 清 足柄上スキー

今野充雄 コスモススキー

和田一義 ユーベル

池田直人 横浜クワイッラー

森谷博幸 厚木スキー

平沢幸一 ウィ・スキー

山田豊利 クリスタライズ

平田茂樹 関東自動車スキー部

小嶋裕吉 足柄上スキー

永野和行 ユーベル

永井完二 ジャンボスキー

佐々木民夫 横浜スキー同好会

河越明彦 富士フィルム

藤井博史 ジャンボスキー

鶴巻信夫 横浜スポーツマン

奥野一成 SOSスキー

都丸英一 東電神奈川

長崎正幸 アールベルグ

坂下秀俊 大和スキー

中 富夫 相模原ハローニー

佐藤親弘 川崎ユーベル

福島美子 ホワイトヘアー

田中 満 スキー虫

尾崎 睦 神大アルペンクロー

福島良二 ホワイトヘアー

阿久津薫 大和スキー

石黒恒男 味の素スキー部

毛塚克巳 湘南液化スキー

芳賀 渡 横浜スキー同好会

高橋 守 市立中学校

篠原顕祐 ド・ネージュ

池亀広志 平塚スキー

堂田輝美 ユーベル

吉沢裕之 泰雪スキー

藤倉恵子 ソニー厚木

中河正樹 横浜スポーツマン

佐藤美智夫 山びこ

鈴木正治 いすゞ藤沢スキー部

林 博光 日本ビクター

江森 梓 横浜クワイッラー

神山 譲 アイクススキー

吉山佳一郎 ファルクンスキー

田村真澄 シーフェルススキー

今井克巳 神大アルペンクロー

齊藤 聡 松下通信スキー部

毛利素子 ジャンボスキー

陶山初子 シーフェルススキー

小池鯉津子 アールベルグスキー

中島英次 神大アルペンクロー

藤木 茂 シーサイドスキー

守 綾子 神大アルペンクロー

石井雅一 大和スキー同好会

遠山浩也 神大アルペンクロー

永田陽子 相模ハローニー

青山雅之 神奈川雪友

桜井雪友 ド・ネージュ

梅津正明 ユーベル

大須賀明彦 東芝スキー連盟

強化部

大会記録

五十九年度の強化部の競技会は国体予選の前にシーズン蓋あけの競技会として、第五回の美津濃杯が、松の内に実施され、シーズンはじめと思えない白熱戦が展開された。さらに、一月中旬の県民体育大会、国体選考会カザマカップは、舞台を戸隠に移して開かれ、国体の代表を得るための息づまる戦いを展開し、神奈川県代表選手が選ばれた。一方、ノルディック競技は、神奈川県連が主管連盟として、東京、千葉の選手を迎え競技会が行われた。団体においては、久しぶりの入賞者を出し、大きな成果をあげることができた。三月の県選手権、小賀坂杯は、今シーズンを締める大会であり、選手的一段とたくましくなった競技会であったと思う。この一年を通して競技会の成績を見ると、年ごとに競技技術が向上していることが目に付き、選手諸君の来年度に向けての精進を期待します。

第五回神奈川美津濃杯

会期 昭和六〇年一月四日〜六日  
会場 上越国際スキー場

◎回転競技(全中記念コース)  
〔女子の部〕

- 一位 佐藤ミツ子(世田ヶ谷) 一分二七秒四七
- 二位 高木由美子(桐カメ) 一分二九秒三八
- 三位 松本キヨ子(世田ヶ谷) 一分三〇秒八三

- 一位 荒木豊志(横コロボック) 一分二二秒四〇
- 二位 高橋謙吉(横アルペン) 一分二四秒六四
- 三位 丹羽一夫(横浜スキー) 一分二八秒八三

- 〔成年四部〕
- 一位 吉田春雄(朝日立神奈川) 一分二二秒八一
- 二位 田中邦規(横浜スキー) 一分二三秒九〇
- 三位 柏木章一(川崎ウール) 一分二四秒〇一

- 〔成年二部〕
- 一位 恵七秀樹(平小松スキー) 一分一九秒二六
- 二位 水野浩二(平日産車体) 一分一九秒六七
- 三位 山根 功(桐キヤタヒラ) 一分二〇秒一八

- 〔成年一部〕
- 一位 羽賀 清(横浜スキー) 一分一七秒五六

- 〔成年四部〕
- 一位 荒木豊志(横コロボック) 四分四秒四二
- 二位 羽賀 清(横浜スキー) 四分四秒四〇
- 三位 稲葉秀司(神奈川大) 四分四秒三七

- 〔少年男子〕
- 一位 三井伸介(横浜スキー) 四分〇秒五七
- 二位 菊地英隆(逗子スキー) 四分〇秒五七
- 三位 佐藤岳雪(世田ヶ谷) 四分四秒三〇

- 〔少年女子〕
- 一位 村元由美子(関東学院中) 一分〇八秒四〇
- 二位 村元真佐子(県立新羽高) 一分一二秒三二
- 三位 西田真美(県立新栄高) 一分一七秒二二

第二回カザマカップ スーパーGS選手権大会

会期 昭和六〇年一月一八日  
会場 戸隠高原スキー場

〔男子の部〕

- 一位 山内桂子(東芝スキー) 一分五七秒八一
- 二位 高木由美子(カメ) 一分五九秒八二
- 三位 長谷川浩子(ユーベル) 二分〇六秒六一

- 〔男子の部〕
- 一位 室星修一(ユーベル) 一分四九秒九〇
- 二位 伊藤明成(ホワイトスキー) 一分四六秒四三
- 三位 渡辺秀昭(東芝スキー) 一分四八秒五〇

- 〔少年男子の部〕
- 一位 小宮章弘(日大高) 一分五三秒九四
- 二位 齊藤佳博(横浜高) 一分五六秒八一
- 三位 三井伸介(新羽中) 一分五七秒二〇

- 〔成年男子一部〕
- 一位 榎並雪彦(明治大学) 四分四秒六九
- 二位 竹節伸二(慶応大学) 四分四秒四八
- 三位 谷川和久(学連) 四分四秒七五

- 〔少年男子〕
- 一位 安藤一秀(法政大二高) 一分〇三秒七八
- 二位 小宮明弘(日本大学高) 一分〇四秒七四
- 三位 齊藤佳博(横浜高) 一分〇四秒九五

- 〔成年男子二部〕
- 一位 山根 功(キヤタヒラ三菱) 五分九秒六五
- 二位 大滝久雄(キヤタヒラ三菱) 一分〇〇秒〇一
- 三位 星 良夫(いすゞ川崎) 一分〇〇秒四二

- 〔成年女子二部〕
- 一位 高木由美子(カメ) 一分一六秒九九
- 二位 中村孝子(東芝スキー) 一分一六秒五七
- 三位 四手井晶子(横浜教職員) 一分一九秒八〇

- 〔成年女子一部〕
- 一位 松本美雪(厚木スキー) 一分一六秒八六
- 二位 山内桂子(東芝スキー) 一分一八秒〇九
- 三位 石川葉仁(逗子スキー) 一分一九秒七一

第三回小賀坂杯 スラローム選手権大会

会期 昭和六〇年三月九日  
会場 上越国際スキー場

〔成年女子二部〕

- 一位 豊田美津子(横浜スキー) 二分一六秒七七
- 二位 中村孝子(東芝スキー) 二分一六秒五七
- 三位 四手井晶子(横浜教職員) 二分一九秒八〇

- 〔成年男子二部〕
- 一位 高木由美子(カメ) 一分四七秒一五
- 二位 松岡雅子(川崎スキー) 一分五二秒〇七
- 三位 中村孝子(東芝スキー) 一分五七秒六六

- 〔成年男子一部〕
- 一位 佐藤寿夫(日電玉川) 一分〇七秒〇二
- 二位 伊藤明成(ホワイトスキー) 一分〇七秒八九
- 三位 羽賀 清(横浜スキー) 一分一〇秒〇六

- 〔少年男子〕
- 一位 安藤一秀(法政第二高) 一分一八秒七六
- 二位 三井伸介(新羽中) 一分二二秒六五
- 三位 小宮章弘(日本大学高) 一分二二秒五四

- 〔成年男子一部〕
- 一位 伊藤恵美子(雪友) 二分二八秒九六
- 二位 山内桂子(東芝スキー) 二分三二秒七九
- 三位 一原万里(日本鋼管) 二分四〇秒三一

- 〔成年男子二部〕
- 一位 荒木豊志(東電コロボック) 一分四二秒一六
- 二位 大原伸悦(横浜アルペン) 一分四二秒九九
- 三位 前田惣一(クワイッラー) 一分四四秒五七

- 〔成年男子一部〕
- 一位 荒木豊志(東電コロボック) 一分一八秒〇八
- 二位 吉田春雄(日立神奈川) 一分一八秒七〇
- 三位 高橋謙吉(横浜アルペン) 一分二〇秒一六

第四回神奈川県 スキー選手権大会

会期 昭和六〇年三月一〇日  
会場 上越国際スキー場

〔成年男子二部〕

- 一位 山根 功(キヤタヒラ三菱) 一分一六秒五七
- 二位 江部広治(富士通) 一分一九秒三八
- 三位 川村一広(コンパニオン) 一分四四秒二二

- 〔成年男子一部〕
- 一位 羽賀 清(横浜スキー) 一分四二秒三七
- 二位 渡辺秀昭(東芝スキー) 一分四四秒二八
- 三位 菱沼利徳(関東自動車) 一分四五秒八七

- 〔少年男子〕
- 一位 三井伸介(新羽中) 一分四一秒〇一
- 二位 千葉啓太(法政第二高) 一分五二秒一五
- 三位 旗 章洋(慶応高) 一分五三秒〇二

- 〔成年女子二部〕
- 一位 山根 功(キヤタヒラ三菱) 一分一六秒五七
- 二位 江部広治(富士通) 一分一九秒三八
- 三位 川村一広(コンパニオン) 一分四四秒二二

- 〔成年男子一部〕
- 一位 若旅健二(横浜スキー) 一分一八秒二二
- 二位 渡辺秀昭(横浜スキー) 一分一九秒八九
- 三位 真坂智幸(日本鋼管) 一分二〇秒〇〇

- 〔少年男子〕
- 一位 三井伸介(新羽中) 一分一六秒六八
- 二位 菊池英隆(逗子中) 一分一九秒八三
- 三位 清野哲也(慶応高) 一分二二秒〇四

大回転競技

会期 昭和六〇年三月一〇日  
会場 上越国際スキー場

〔成年女子〕

- 一位 久米香織(東芝スキー) 二分二七秒
- 二位 村松 孝(東芝スキー) 三分〇四分八
- 三位 北川松男(横浜スキー) 三分三〇秒

- 〔成年男子二部〕
- 一位 岩村 茂(東芝スキー) 二分二八秒九六
- 二位 藤木 豊(日産自動車) 二分九一秒一五
- 三位 細矢 実(東芝スキー) 三分〇五分三三

- 〔成年男子一部〕
- 一位 倍賞耕二(東芝スキー) 二分六分五四秒
- 二位 吉岡庸雄(横浜スキー) 二分七一分二秒
- 三位 佐々木恵(東芝スキー) 二分七四分三秒

- 〔成年男子二部〕
- 一位 東芝A 五分八分二九秒
- 二位 日産車体 六分三十分五秒
- 三位 東芝B 六分三十分八秒

- 〔成年男子一部〕
- 一位 東芝A 五分八分二九秒
- 二位 日産車体 六分三十分五秒
- 三位 東芝B 六分三十分八秒

第七回神奈川県民体育大会 第四〇回国体スキー競技会 神奈川選考会

会期 昭和六〇年一月一九日  
会場 戸隠高原スキー場

〔成年女子二部〕

- 一位 高木由美子(カメ) 一分一六秒九九
- 二位 中村孝子(東芝スキー) 一分一六秒五七
- 三位 四手井晶子(横浜教職員) 一分一九秒八〇

- 〔成年女子一部〕
- 一位 松本美雪(厚木スキー) 一分一六秒八六
- 二位 山内桂子(東芝スキー) 一分一八秒〇九
- 三位 石川葉仁(逗子スキー) 一分一九秒七一

- 〔少年男子〕
- 一位 三井伸介(横浜スキー) 四分〇秒五七
- 二位 菊地英隆(逗子スキー) 四分〇秒五七
- 三位 佐藤岳雪(世田ヶ谷) 四分四秒三〇

- 〔少年女子〕
- 一位 村元由美子(関東学院中) 一分〇八秒四〇
- 二位 村元真佐子(県立新羽高) 一分一二秒三二
- 三位 西田真美(県立新栄高) 一分一七秒二二

- 〔成年男子二部〕
- 一位 山根 功(キヤタヒラ三菱) 五分九秒六五
- 二位 大滝久雄(キヤタヒラ三菱) 一分〇〇秒〇一
- 三位 星 良夫(いすゞ川崎) 一分〇〇秒四二

- 〔成年男子一部〕
- 一位 榎並雪彦(明治大学) 四分四秒六九
- 二位 竹節伸二(慶応大学) 四分四秒四八
- 三位 谷川和久(学連) 四分四秒七五

- 〔少年男子〕
- 一位 安藤一秀(法政大二高) 一分〇三秒七八
- 二位 小宮明弘(日本大学高) 一分〇四秒七四
- 三位 齊藤佳博(横浜高) 一分〇四秒九五

- 〔少年男子〕
- 一位 安藤一秀(法政第二高) 一分一八秒七六
- 二位 三井伸介(新羽中) 一分二二秒六五
- 三位 小宮章弘(日本大学高) 一分二二秒五四

大回転競技

会期 昭和六〇年一月二〇日  
会場 戸隠高原スキー場

〔成年女子二部〕

- 一位 高木由美子(カメ) 一分一六秒九九
- 二位 中村孝子(東芝スキー) 一分一六秒五七
- 三位 四手井晶子(横浜教職員) 一分一九秒八〇

- 〔成年女子一部〕
- 一位 松本美雪(厚木スキー) 一分一六秒八六
- 二位 山内桂子(東芝スキー) 一分一八秒〇九
- 三位 石川葉仁(逗子スキー) 一分一九秒七一

- 〔少年男子〕
- 一位 三井伸介(横浜スキー) 四分〇秒五七
- 二位 菊地英隆(逗子スキー) 四分〇秒五七
- 三位 佐藤岳雪(世田ヶ谷) 四分四秒三〇

- 〔少年女子〕
- 一位 村元由美子(関東学院中) 一分〇八秒四〇
- 二位 村元真佐子(県立新羽高) 一分一二秒三二
- 三位 西田真美(県立新栄高) 一分一七秒二二

- 〔成年男子二部〕
- 一位 山根 功(キヤタヒラ三菱) 五分九秒六五
- 二位 大滝久雄(キヤタヒラ三菱) 一分〇〇秒〇一
- 三位 星 良夫(いすゞ川崎) 一分〇〇秒四二

- 〔成年男子一部〕
- 一位 榎並雪彦(明治大学) 四分四秒六九
- 二位 竹節伸二(慶応大学) 四分四秒四八
- 三位 谷川和久(学連) 四分四秒七五

- 〔少年男子〕
- 一位 安藤一秀(法政大二高) 一分〇三秒七八
- 二位 小宮明弘(日本大学高) 一分〇四秒七四
- 三位 齊藤佳博(横浜高) 一分〇四秒九五

- 〔少年男子〕
- 一位 安藤一秀(法政第二高) 一分一八秒七六
- 二位 三井伸介(新羽中) 一分二二秒六五
- 三位 小宮章弘(日本大学高) 一分二二秒五四

# 第4回 オール神奈川スキーーズ大会

●会期 昭和60年 2月24日  
 ●会場 上越国際スキー場 大沢山コース

競技選手、指導員、一般会員と神奈川県のスキーを愛好する者が集結するこの企画も、四回目となり、なつかしい顔、新しい顔、いつも合う顔と会員の親睦の輪も広がってきた。

スタート付近のなごやかな雰囲気は、他の競技会では見られない光景でもある。

今大会は、二七〇名の参加申込があり、オールドバワーに加え指導員の参加が増し、本企画の主旨である会員相互の親睦もより一層深めることができた大会となった。

- 〔オールドバワー〕女子  
 一位 丸山禮子(川崎スキー) 一分二四秒八八  
 二位 福山和江(古い帽子) 一分二六秒六二  
 三位 貝野瀬公子(茅ヶ崎スキー) 一分二七秒四〇
- 〔指導員の部〕女子  
 一位 加藤記美子(横浜教職員) 一分二七秒三〇  
 二位 小林智子(バイスパウム) 一分二七秒四八  
 一位 宮口幸美(シィフェル) 一分二九秒五六  
 二位 生沢まゆみ(一般) 一分三二秒一〇  
 三位 井東雅恵(一般) 一分三五秒〇〇
- 〔競技選手の手〕女子  
 一位 浪江奈津代(スポーツマン) 一分一六秒〇七
- 〔一般の部〕男子  
 一位 伊藤啓子(一般) 一分一六秒九六  
 三位 伏屋真澄(スポーツマン) 一分一七秒七八  
 (少年の部) 男子  
 一位 山口崇男(ユール) 一分〇八秒四〇  
 二位 徳田 智(どんぐり) 一分二六秒六四  
 三位 中田 圭(一般) 一分二六秒七六
- 〔オールドバワー〕男子二組  
 一位 石田久一(茅ヶ崎スキー) 一分一九秒〇三  
 二位 後藤早久(川崎いすゞ) 一分二三秒五二  
 三位 押川泰夫(逗子同好会) 一分二六秒一九
- 〔オールドバワー〕男子一組  
 一位 丹羽一夫(横浜スキー) 一分〇九秒三七  
 二位 榎本賢一(川崎スキー) 一分一〇秒六九  
 三位 村石 勇(川崎いすゞ) 一分一三秒一一
- 〔指導員の部〕男子五組  
 一位 山崎七郎(SCカメ) 一分一三秒〇八  
 二位 吉岡幹雄(神奈川若葉) 一分一三秒七二  
 三位 小川俊彦(逗子同好会) 一分一四秒九六
- 〔指導員の部〕男子四組  
 一位 前田惣一(クワイッラー) 一分〇三秒六五  
 二位 山本 讓(てんじスキー) 一分〇六秒四〇



## 第3回全関東基礎スキー選手権大会

日時 昭和六〇年二月一日  
 場所 車山高原スキー場 (男子の部)  
 堀 裕樹 一二位  
 義達 活良 一三位  
 松本 伴之 一七位  
 鶴岡 裕 一八位  
 名越 真也 一九位  
 及川 城司 二〇位  
 (女子の部)  
 田村 真澄 八位  
 大橋 由子 九位



- 〔指導員の部〕男子三組  
 一位 戸沢真美(秦雪) 一分〇四秒〇七  
 二位 土屋広夫(日本鋼管) 一分〇五秒一三  
 三位 吉田春雄(日立神奈川) 一分〇七秒一一
- 〔指導員の部〕男子二組  
 一位 山本英雄(SCカメ) 一分〇四秒四八  
 二位 三塚洋二(相雪スキー) 一分〇六秒七八  
 三位 井上文男(東芝スキー) 一分〇七秒一九
- 〔指導員の部〕男子一組  
 一位 井千歳(SCカメ) 一分〇五秒七八  
 二位 桐生 武(大和同好会) 一分〇七秒〇五  
 三位 部 祐司(クワイッラー) 一分〇七秒六六
- 〔一般の部〕男子三組  
 一位 福田昂之(東電コロポック) 一分一四秒〇一  
 二位 山口 巖(一般) 一分一五秒二六
- 〔一般の部〕男子二組  
 一位 齊藤寛二(バイスパウム) 一分一五秒二六  
 二位 篠崎敏男(山手スキー) 一分〇四秒五六  
 三位 越藤茂幸(富士電機) 一分〇七秒七二
- 〔一般の部〕男子一組  
 一位 今井正彦(日立SK) 一分〇五秒〇七  
 二位 志田信光(一般) 一分〇五秒一〇  
 三位 前田民雄(川崎いすゞ) 一分〇五秒三三
- 〔競技選手の手〕男子三組  
 一位 荒木豊志(東電コロポック) 一分〇一秒三五  
 二位 二ノ宮勝行(SCカメ) 一分〇四秒六二  
 三位 小林俊夫(横浜スキー) 一分〇七秒一七
- 〔競技選手の手〕男子二組  
 一位 岡本敦英(中原リゼン) 五九秒一九  
 二位 川口典夫(横浜スキー) 一分〇〇秒八〇
- 〔競技選手の手〕男子一組  
 一位 山田喜一郎(川崎スキー) 一分〇二秒九六  
 二位 中島真一(スポーツマン) 五九秒二八  
 三位 羽賀 清(横浜スキー) 一分〇〇秒〇四
- 〔競技選手の手〕男子一組  
 一位 杉山和宏(一般) 一分一三秒九六  
 二位 伊藤敏博(スポーツマン) 一分一四秒三四  
 三位 大喜弘志(小松製作所) 一分一八秒六〇

### 募集

○読者の声  
 SAKだよりを、かかさず読んでいます。読者の方から楽しい原稿を募集しています。

スキーの画期的な習得法や、スキーの海外旅行に行つて注意しなければならぬ事の経験談やエピソードなど。

投稿をお待ちしています。

### 第5回全国基礎スキーフェスティバル

長野県スキー連盟が主催する全国の指導員を対象に開催しているこの大会に、神奈川県スキー連盟の会員が数名参加し活躍しています。多数の参加と活躍を期します。

日時 昭和60年3月30日〜31日  
 会場 八方尾根スキー場

予選順位(六位まで決勝進出)  
 (男子四部)  
 細井 健吾 一六位  
 (男子三部)  
 前田 惣一 二位  
 福沢 洋治 六位  
 戸嶋 洋司 七位

### 編集後記

取材用のカメラが故障し、現象から上つてきたフィルムは、無情にも薄オレンジ色の帯となりゾロゾロと袋から出て来る。

ショック。このフィルムは、何を写したのか、頭の中を、シャッターを押した瞬間のあのシーンが次々と思ひ出されてくるがここには何もなかった。

新発売のカメラを店頭展示する前に横取りした、待望の一眼レフ、ただ信頼関係だけでシャッターを切りつけて八年間。寒い雪の中で風にさらされ、へたな滑りで上下左右に振り廻わされた、タフだったカメラもとうとうダウンしドッグに入院した。

復活して帰ってきた愛機の横に小型のオートフォーカスが並ぶようになると、信頼関係がぐずれたわけではないが、あの時のショックは影響している。でもバカチョンカメラは良く写るよ……。(N記)

## 指導員

- 雪の下からちよつぱり新緑の芽が顔を出しはじめた早春の車山高原スキー場。
- 神奈川の、若き指導員から先輩の指導員が二〇〇名、最後の冬を惜しむように快足する。
- 四月三日、春雨が静かに降るゲレンデに集まったスキーヤーは、熱心に滑っている。佐藤正人君そして関口潤君の顔が見える。全日本スキーのトップデモを中心に、雨の存在など忘れていたのかのように熱心に講習会が行なわれているから。
- 四月一四日、快晴。きのうの春
- 雨はどこかに吹き飛んで、雲一つない青空が広がる中、競技はスタートした。
- オールドバワーの元気な滑走に声援が飛ぶ。ここには、競技会の殺伐とした雰囲気はない。たがいに同僚として顔見知りの選手に声援を送る。
- ただ純粹にスキーを楽しむ、そして会員の親睦と友情の輪が、また一つ大きく広がっていく。
- 〔女子の部〕七組  
 一位 貝野瀬公子(茅ヶ崎スキー)  
 (女子の部) 六組  
 一位 星川満子(古い帽子)  
 二位 土田美代子(平塚スキー)  
 三位 福山和江(古い帽子)
- 〔女子の部〕三組  
 一位 野口君代(東芝スキー)  
 二位 竹居由紀子(ハマススキー)  
 三位 渡部慶子(平塚スキー)  
 (女子の部) 二組  
 一位 舟久保みよ子(教職員)  
 二位 岩田秋子(川崎スキー)  
 三位 永井優理(川崎スキー)  
 (女子の部) 一組  
 一位 岡崎恵子(川崎ユール)
- 〔女子の部〕五組  
 一位 加藤良子(川崎スキー)  
 二位 井戸ゆりえ(スノーマイツ)  
 三位 廣松佐藤(スポーツマン)  
 (女子の部) 四組  
 一位 伏屋真澄(スポーツマン)  
 二位 加藤記美子(教職員)  
 三位 山岸あやこ(スノーマイツ)
- 〔女子の部〕八組  
 一位 和久井民雄(平塚スキー)  
 二位 笹原敏男(スパーロウ会)  
 三位 佐藤要次郎(横浜同好会)  
 (男子の部) 七組  
 一位 榎葉賢一(川崎スキー)  
 二位 嵐 要(国鉄大船)  
 三位 青木規生(教職員)  
 (男子の部) 六組  
 一位 田村由郎(スノーマイツ)
- 〔女子の部〕二組  
 一位 大江 健(川崎ユール)  
 二位 本田俊章(教職員)  
 三位 富樫幹雄(相模原市役所)  
 (男子の部) 一組  
 一位 山崎茂樹(川崎スキー)  
 二位 貝野瀬晃(茅ヶ崎スキー)  
 三位 桐生幹也(フアルケン)
- 二位 遊佐 勉(ユール)  
 三位 岡本重男(ユール)  
 (男子の部) 五組  
 一位 福沢洋治(横浜同好会)  
 二位 徳田耕作(相模原市役所)  
 三位 松村光男(フアルケン)  
 (男子の部) 四組  
 一位 戸沢真美(秦雪)  
 二位 岩崎悦信(フアルケン)  
 三位 善家英人(川崎スキー)  
 (男子の部) 三組  
 一位 三塚洋二(相雪)  
 二位 渡部光夫(スノーマイツ)  
 三位 西内正博(横浜同好会)  
 高橋雄二(スノーマイツ)